

審議会等の会議結果報告

1 会議名	令和2年度第2回津市図書館協議会
2 開催日時	令和3年3月15日(月) 午前10時30分から午前11時30分まで
3 開催場所	津図書館 2階視聴覚室
4 出席した者の氏名	(津市図書館協議会委員) 池上友記子、河北大満、小泉英子、柴田節子、前川典子、山下恵子 (事務局) 教育長 森昌彦 教育次長 宮田雅司 教育研究支援担当参事(兼)教育研究支援課長 伊藤雅子 津図書館長(兼)津図書館図書事務長 山下三佳 津図書館調整・図書館管理担当主幹 赤塚真一 津図書館奉仕担当主幹 山口理絵 津図書館奉仕担当副主幹 大西良幸 津図書館図書館管理担当主事 中山太志
5 内容	(1) 図書館サービス等の在り方について (2) その他
6 公開又は非公開	公開
7 傍聴者の数	0人
8 担当	教育委員会事務局津図書館図書館管理担当 電話番号 059-229-3321 E-mail 229-3321@city.tsu.lg.jp

議事の内容 下記のとおり

<事務局>

それでは、お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただ今から令和2年度第2回津市図書館協議会を開催させていただきます。

委員の皆様には、お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

それでは、開会にあたりまして、津市教育委員会教育長から御挨拶を申し上げます。

教育長

皆さんおはようございます。年度末の大変慌ただしいお忙しいなか御参集いただきありがとうございます。令和2年度もあと残り2週間と少しということになり、本当にコロナ禍の中で終わるのかなというふうに思います。学校なんかも、先日、中学校の卒業式が終わりまして、今度18日が小学校。河北先生もたぶんお忙しい中、慌てて来ていただいたのではないかなと思うのでございます。また、修学旅行も今年はまだ随分行き先の懸念など、いろいろあったのですけれども、実は今日、美杉中学校が延ばされていて、卒業式が終わったのですけれども、今日明日と修学旅行に行っている。今日は天気にも恵まれたので良かったと思いつつ、今日を迎えております。

もっと違う視点で言いますと、ワクチンなんかも今言われていますけれども、なかなか予定どおり入ってこない状況で、津市内の高齢者で85,000人ぐらいのワクチン該当を受ける方がみえるのですけれども、今度届くのが1箱、500人分ぐらいしか届かないということで、見通しがなかなかどうかということ、しばらくはこのような生活がもう少し続くのかなというふうに思います。そのような中、図書館でも、そういったことをきちんと考えた上での、運用・運営となっていくのかというふうに思います。

本日、この協議会の中でいろいろお話いただくのですけれども、津市は9館2室図書館があるわけなのですけれども、この人口規模でこれだけ幅広く図書館があるというのはなかなか珍しいのです。ということは、ある面とっても良いことで、できたらこのような形で、津市は広いですから、いろいろなところに図書館があって利用していただくことは良いことだと思う一方、この人口でこの中でこれだけ図書館が必要なかっていうふうなことも実は問われていることも確かです。老朽化といったことなど、いろいろな維持管理ということを見ると、今問われているのは、必要なものであったら、それぞれの図書館に特色を持たせていくべきでないかというようなことが問われているのも、事実です。前回の協議会の中でもお話しさせていただいたのですけれども、津市の図書館をできるだけこのような形で存続をしてくためにも、どうか協議会の皆さまのお知恵をお借りして、各図書館を存続できるように、どのように特色化をしていったら良いのか、そのような辺りで少しお知恵を頂けたらありがたいと思います。本日はよろしく願いいたします。

<事務局>

ありがとうございました。次に本日の出席者数を報告いたします。委員10名中、現在6名の方が出席いただいております。よって、津市図書館協議会条例第5条の規定による、会議成立の条件である委員の過半数の出席を満たしておりますので、本日の会議が成立していることを御報告申し上げます。なお、本日の傍聴者はございません。

当会議につきましては、津市情報公開条例第23条の規定により、これを公開しております。同様に会議録につきましても後日公開となりますので、会議内容を録音させていただいております。よろしく御了承賜りますようお願い申し上げます。

ここで、お手元に配布させていただきました資料につきまして、御確認い

ただきたいと思います。

まず事項書。次に津市図書館協議会委員名簿、その裏面は津市図書館協議会事務局職員名簿。資料1といたしまして、「津市個別施設計画」のうち図書館部分抜粋。資料2としまして各図書館の特色等について。資料3といたしまして図書館サービスの在り方について（図書館の特色に係る検討）。ここまでが協議事項に関する資料になります。続きまして、資料4が令和2年度事業報告。その関連資料としまして資料4-1がPOPコンテンツちらし、裏面がその募集要項。資料4-2が読書案内の令和3年2月分。資料4-3がクローバー（中学生版新刊案内）。資料4-4が書籍消毒機新聞記事。資料4-5が令和2年度津市図書館行事結果一覧（各館別）。資料5が令和2年度テーマコーナー・資料展示です。

その他に参考資料としてお渡ししたのが、「図書館たいむず」の2月号と3月号でございます。以上ですが、配布漏れ等はございませんでしょうか。

それでは、津市図書館協議会条例第4条の規定により、ここからの会議の進行につきましては、会長をお願いいたします。よろしく申し上げます。

河北会長

おはようございます。白塚小学校の校長の河北と申します。会長を務めさせていただきます。進行等も承ります。よろしく申し上げます。

卒業式が小学校18日にありまして、今日が最終の協議会であります。白塚小学校では同じ時間に子どもたちも最後のリハーサルを行っているところです。卒業式は例年ですと、小学校の場合は呼びかけをしながら、歌もたくさん歌って元気ハツラツにするのですが、全員のマスクをつけているので、歌もハツラツにできないのです。心を込めて歌っていますので、大きな声は出ませんし、呼びかけも呼びかけられる相手が居ないので、卒業生しか参加していないので、形を変えて代表の子どもたちが中学校みたい1年間の想いを綴ってお母さんたちへの感謝の気持ちを述べるという卒業式になります。

去年の卒業式は、これすら練習できないまま、一発、卒業証書を渡す練習を最終日に、明日から休校という最終日に1時間だけ練習して終わりでしたから、それに比べると何か自分たちもやりたいことが練習できているのかなと思います。この中で、地域の方々や保護者の方々から学校の子供たちへということで、さまざまなバックアップや支援をいただいています。図書館のボランティアさん、うちは3名しか居ないので、卒業生に何かできないかということで、本当に図書館の外の掲示板のところにいっぱい綺麗に、在校生からのメッセージと、6年生が親御さんへの向けてのメッセージと、先生たちのメッセージをドンと作ってくれて、こういうのを最後だからしてあげたいのですということで、学校の先生たちも協力してやってあげようということでさせてもらいました。

僕たちが気づいていないことで、学校は子どもたちのことで地域の方から支えてもらって、1年間なんとか過ごすことができたなと思って、本当に毎日感謝をして一日一日を過ごしています。残すところ少ないですが、最後まで頑張っていきたいと思っています。お話が長くなりすみません。

それでは協議事項に入らせていただきます。

まず、はじめに、図書館サービスの在り方についてということで、よろしいでしょうか。

<事務局>

はい。

河北会長

お願いします。

<事務局>

津図書館長の山下でございます。恐れ入ります。座って説明させていただきます。

資料1を御覧ください。こちらの方は津市個別施設計画の図書館部分の抜粋になります。津市個別施設計画は令和3年2月に策定、公表されたものでございます。津市個別施設計画とは、平成29年1月に策定した津市公共施設等総合管理計画に基づき、本市の施設毎の具体的な対策方針を定める計画として、適正配置に係る優先順位の考え方でありまして、対策の内容、実施時期などを中長期的な視点で定めるものでございます。計画期間は令和2年度から令和11年度までの10年間ですが、その後も引き続き令和12年度からの第2期計画10年間、令和22年度からの第3期計画7年間で予定されておるものでございます。そこで、本計画は施設毎の現状と課題を整理し、方向性の計画を立てているものです。図書館につきましては、今後10年間、改修等により計画的保全の方向性が示めされており、これに沿っての協議をお願いするものです。

津市図書館につきましては、各図書館が独立した図書館としてそれぞれが幅広い資料を収集し、市民の皆様のニーズに応えられるよう取り組んでまいりました。この9館2室あります図書館を存続、維持していくためにそれぞれの特色を図書館に持たせるということなど、なんらかの方式により廃止や統合の方向性を防ぎたい、利用者の利便性のために現在の図書館数の状況を維持していきたいと考えています。そのための御意見を頂戴したいと思っております。

資料2は前回会議でお渡ししました「各図書館の特色について」の資料でございます。資料3につきましては、前回の会議後、各図書館の意見を聞きながら、進めている現在の状況についてまとめましたものになります。こちらの資料については奉仕担当の方より説明させていただきますので、その説明ののち、御質問であるとか忌憚ない御意見等を頂戴したいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

<事務局>

津図書館奉仕担当主幹の山口と申します。よろしくお願いたします。では、座って説明させていただきます。

先ほど館長の方からも説明いたしました、前回配布いたしました資料2の各図書館の特色等についての一覧で、それぞれの地域の地理的な条件や環境面などから、各図書館の特色と重点的に所蔵する分類案というのを表の中ごろにある案でお示ししています。

資料3を御覧ください。(1)分担収集についてですが、先ほどの前回お配りした資料2の分類案と合わせまして、今回それぞれの館で分担して資料を収集・保存していく分類番号を検討しました。(1)分担収集の表にありますように、各図書館が所蔵を担当する具体的な分類番号を決めまして、分担して資料を収集・保存していく方法を探りたいと考えています。

まず、一般的な資料については全館で所蔵しますが、その上で担当を決めた分類番号の資料については、より専門的な資料などを分担して収集・保存したいと思っております。資料の分類番号につきましては、資料3の裏面にございます日本十進分類表という番号の表を付けさせていただきました。こちら、日本十進分類法の分類表とその分類番号ののったものになりまして、図書館の資料を内容によって0～9の分野に分けております。この分類番号を付与することにより、図書館の資料を整理し館内に配架しているということになります。具体的に説明いたしますと、資料2の方、地域図書館Aグループの河芸図書館であれば、資料2の分類案では釣りや乗馬に関する分類の案を挙げているため、資料3の分類番号でいきますと、7番の芸術という分類を収集することになります。同様に、Bグループの芸

濃図書館では、山や農業関係の分類を挙げているため、農業の分類のある6の産業を担当するというふうにしております。また、中央図書館の区分になります、津図書館と久居ふるさと文学館については、地域図書館で担当しておりません0番の総記、1哲学、9文学という分類の分野を担当することにしております。分担収集を行うことにより、より深く読みたい学びたいという希望を持つ方には豊富な資料を読んでもいただくことができます。また、担当分野の資料の所蔵変えをすることによって、図書館のスペースを有効に活用しながら、資料の収集・保存につとめていきたいと考えております。

(2)の基本的な資料の収集については、先ほど説明いたしました分担収集においても、児童書、子どもさん向けの資料ですね、全般ですとか、地元に関する郷土資料、行政資料などはどこの図書館でも所蔵する必要な資料ということで、今後も全館で収集していく予定です。

(3)の購入冊数の考え方というところになりますが、資料の有効活用の面から、市内図書館での同一資料の購入冊数の上限を決めてはどうかということになりまして、検討をいたしました。資料3裏面に(3)購入冊数の考え方の表がございますが、こちらの左側のように、現在ですと予約多数の資料ですとかその他のもので同一資料を各館で購入していますので、多いものでは同一資料を10~12冊を所蔵しているケースもあります。幅広い市民のニーズに応えるために、より多くの種類の資料を収集して提供できるように、同一資料の購入の限度を5冊までとしまして、所蔵する図書館は同じ表の矢印の右側のおり2つの中央図書館と3つの地域図書館の5館としたいと考えています。こちらに関しましても先ほど説明しました(2)の基本的な資料のほか、予約多数が想定される資料については除外し、主に一般(大人)向けの実用書などが対象となるかと思えます。上限を定めましたことで削減した予算で、各館で担当する分類の図書を収集するように考えていきたいと思っております。

以上で各図書館の特色に係る検討をいたしました分担収集や購入冊数の考え方につきまして、説明をいたしました。御意見を賜りたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

河北会長

ありがとうございます。各図書館の特色についていろいろ御説明いただきましたが、協議に入りたいと思えます。御質問や御意見ありましたらよろしく願います。

はい、小泉委員。

小泉委員

今お話しいただいたのは、図書館の間で本を共有するという考え方をされているのかなと思って、これで良いのかなと思っているのですが、提案させていただきたいのは、今日は教育関係の方もいらっしゃるのだからなんですけれども、前の会議の時に小中学校の方をもう少し来てほしいというのがあったので、今お話しさせていただきます。

私、前の豊中に居たときもそうですし、こちらに来たときも南立誠小学校で図書館のボランティアをさせてもらっているんですけど、引っ越してきたのは、津市の方が本が多い、学校図書館でいうと。なんでだろうと思ったんですね。教育に力を入れてはるっていうのも分かるんです。様子を見ていたら、豊中とこちらと違うと思ったのは、豊中に居たときは、学校図書館で市の本を借りられたんです。学校図書館に行って、学校図書館に本がない場合は、豊中市の図書館から、ここの図書館にあるから借りてあげるねっていうので、気軽に借りられたんですけど。こちらで様子を見させていただいているとその連携がないんだなって思いまして。もし学校の図書館と津市の図書館が連携をできれば、蔵書もぐっと減らせ

ると思ったのです。

それと、ボランティアのお母さんの中で話をしたんです。図書館に人を、小中学校の子を行かせたいという話が出ているんだけど、どう思うって聞いたんですね。そうしたらやっぱり、自分の小学校の子なんか、自分の小学校の区域内に図書館があれば、気楽に自転車を使って行くんだけど、もし自分の学校の区域に図書館がないんだったら、親の車でしか行かせられない。ああそうかと思って、だから図書館を増やして欲しいということではないんですけども、図書館の本を一生懸命ためてらっしゃるのを私も分かっているんで、学校の方にも回しているいろいろやりくりする形ができたならその本をもう少し有効に活用できるし、子どもたちも「ああそうか」と、津市の学校の図書館しか知らない子も多いと思うんです。津市の図書館へ行ったら、もうちょっとこういう面白い本があるかもしれんっていう、興味を持ってもらえるのではないかと思ったのと、あともう一つは、中高生を増やしたいというお話があったもので、私はここしか来ていないもので、館内見させてもらったんです。小中学生とか、ちっちゃい子の集まりを見て。そうしたら、ちっちゃい子用のリーフレットとか、私ももらってきたのがこれですけど、中学校の子にはこういう本があるよというのは一生懸命作ってらっしゃるのはわかったんですけども、一生懸命やっていることをやっぱり小中学校へコピーを一枚渡して、全員校長に渡してもらって、壁に貼るとかしてもらったら、図書館ってもっといろいろ本があるんだなと分かってもらえるんじゃないかなと思いました。

河北会長

ありがとうございます。

<事務局>

ありがとうございます。

河北会長

他にも同意見とか、まとめて同じような意見があれば。

山下委員

小泉さんの意見に関連してなんですけれども、私は図書館は本に触れるという意味では非常に大事な施設ですし、学校図書館ももちろんその一つだと思うんですけれども、子どもたちにとってやっぱり居心地の良い場所にしなければ、本好きの子どもは行くけれども、なかなか本に触れる機会が持てなかったり、家庭の事情もあると思うんですけれども、そういう子どもたちに気軽に本に触れられるような環境がある図書館になったら良いなと思ってらんです。それが小泉さんがおっしゃったみたいに、学校の図書館で叶えば一番いいですし、この図書館を見ていても、結構小学校の区域内にあるところがほとんどかなと思ってらんですけれども、そういったところで、幼児の子育て広場を併設してみたりとか、子どもたちが放課後に利用できるような工夫をすとか、そういったことができれば、今、子どもたちは家庭か学校か、大人でいうと親と先生しかふれあいが無いと思うんですね。そんな中で、地域の人に関わりを増やすことで、社会性も身についたりとかそういうことも育つかなと思っていて、図書館が第三の居場所的のところになれば良いなと思ってます。具体的にはあれですけど。

河北会長

ありがとうございます。ふれあいの場であったり、居場所の問題などもありましたが、他にいかがですか。関連して話ありますか。

前川委員

私も小学校のボランティアに行かさせていただいたり、一時期中学校にもボランティアに行かしてもらったこともあるんですけども、学校でシステム化になった時に、津市で、あの時に人手がたくさんいるということで、行かせてもらったこともあるんですが、休み時間も教室に居られない

子どもさんたちは、ボランティアさんたちが居るとか、司書の先生が1週間に1回か2回みえますので、その時に、休み時間ごとに来て、たわいのない話をして、何かお手伝いすることないかと言って、そういう時に、さっきも言われていた安心して居られるような第2の保健室ではないですけども、そういう場面もあって、そういう役割もあるんだということを中学校に行って感じました。学校の図書室を公共と関連させるということですけども、システム化する時にそういったお話がちらっとあったような気がします。それをするのは子どもたちにとってもいいことだと思うんですけども、逆に人気の本とかがここの学校にあるということで、一般から貸し出しが行ってしまうと子どもたちの目に入らない。子どもたちの手に届かない間に、一般の方へ行ってしまいう危険性もありえるから、学校で冊数を増やして、人気の本は子どもたちの手に取れるような対応をしながら、そういうもの関連を付けるようにしてもらえたいのかなと思います。

小さい子どもさんが図書館や本に近づけるようになるというのには、ちょっと話が脱線するのですが、赤ちゃん向けのおはなし会も参加させてもらっているのですが、去年は全くなくてお母さん方のお話をちょっと聞いていると、産休の間に来ています。同じ月例の子たちが集まってくるので、そこで保健所だけではなくて、地域の住んでいる人たちを探すと目的があるし、お友達作りもあるし、子どもたちの関わり合いを求めて、図書館というのは安全であるという場所というのがお母さんたちが持っているみたいで、そこのお友達を作り、残って長いことお話されたりとかして、私も子どもが居るので、こういう時どうでしたというようなお話で、子育て支援的な役割もすごいあるんです。

赤ちゃん向けのおはなし会をさしてもらっているときに、お話し会に参加された方は、イベント参加カードを書いていただきますよね。あれをもうちょっと、図書カードがあるので、あれで今日私おはなし会参加しますって言ったら、カウンターでピッして記録してもらおうとかしないと、お母さん方は荷物が多く、赤ちゃんを抱えて、こっちにこう、本を持って、すごいたくさんで、またおはなし会の会場に来て書いてもらうときに、全部を下してカードを出してっていうのはちょっと大変かなと思うので、そこをもうちょっとスムーズにできるようなことも、これからおはなし会もずっとあるので、そういった対応をちょっとしていただけたらなと思います。

以上です。

河北会長

はい、ありがとうございます。赤ちゃん向けのおはなし会の話も出ましたし、学校の蔵書が一般に行くのが心配という声もありましたので、他にいかがでございますか。ちょっと事務局に戻して良いですか。

はい。では事務局の方から、御意見等についていかがですか。

<事務局>

御意見ありがとうございます。本当に、学校でありますとか、学校を通じて、そういった低年齢のお子さんに関するところ、いくつも方法があるのかなと聞かせてもらいました。まだまだ私たち、図書館は図書館なんだっていうふうな線引きがあったのかなっていうふうに感じました。もっと学校であるとか、地域であるとか踏み込んで、どこまでできるかわかりませんが、踏み込んで、本当に一人でも多くの方が本に触れる機会を持っていただけるように、ボランティアさんには、力を尽くしていただくようお願いすることも出てこようかと思うのですが、大切なことだなと感じました。

小さいお子さんをお連れの方、お困りということもありましたので、そう

いった点は、早急に改善できるのかなと思っております。貴重な御意見ありがとうございました。今後の参考にさせていただこうと思います。

今のオレンジ色のクローバーであるとかってという冊子なのですが、この後お話をさせていただきます、こういうPOPづくりコンテストを行っております。募集して集まったものについては、そういうおすすめ本のご案内にも活かしていきたいなと思っておりますので、そういったところで学校であるとか、児童生徒の方に御覧いただける、本当に興味を持って見ていただけるんじゃないかなと取組んでおりますので、そういった一覧表だけではなくて、もう少し工夫をしていきたいと考えておりますので、そちらの方もよろしく願いいたします。

以上です。

河北会長 図書館の案内は学校の方には来ています。図書館の方には掲示していません。ただちょっと細かいんでね。

<事務局> そうですね。

河北会長 あとどうでしょうかね。

<事務局> すみません。

河北会長 はい。

<事務局> 教育研究支援課の伊藤です。よろしく願いいたします。

委員の方から貴重な御意見ありがとうございました。

学校図書館ですが、当課の方、教育委員会の方で、蔵書の予算を一斉に計上させていただいて、その学校の規模であったりとか、図書館の内容、古い本ばかりある学校なら入れ替えしなければいけませんので、そのあたりのどれくらい充実しているかという中身を見させていただく中で、配当を決めさせていただいて、毎年できる限り、こういうインターネットが普及してきたり、いろんなインターネットを通じて資料をいただけるのですが、子どもたちの手に取って読む本が軽視されないように、予算が軽減されないようにということで予算取りをさせていただいております。

学校で配当された予算というのは、それぞれの学校で、図書館司書、教諭、先生方、いろいろな子どもたちに聞きながら、入れ替えをしていただいているところなのですが、なかなかそれでは、新しい本を常に入れ替えてということが、学校の予算だけでは難しいですので、学校によっては先ほどおっしゃっていただいた団体貸出という形で、図書館に来てもらって貸出をしてもらっている、借りてきて子どもたちに与えているという学校もありますが、すべてがそのような形で、うまく効果的に活用できていない部分もあるのかなと感じます。

70校ありますので、なかなかそのようなところが十分にできていないことがあるのかなと思いますので、今日頂きました御意見をさらに学校の方へ発信させていただいて、できる限り今ある資源を十分活用できるように考えていきたいと思っております。

河北会長 他にいかがですか。

どうぞ小泉委員。

小泉委員 私、保健センターの方で、4か月児の身体測定とか健康相談とかにちょっと関わらせていただいているんですが、保健センターと図書館縦にガッ



とあるのは分かるのですけれども。

ここでも保健センターと一緒に事業をやったということが書かれてはいるのですけれども、こういうのは、わざわざイベントですとかやったら図書館に興味がある保護者さんしか来ないんですけれども、こういう身体測定とか健康相談とか、マタニティクラブとかいろいろされているんですけれども、やっぱりおもちゃしかないんですよ。子どもをあやしてくださいねって、手伝いに行ったときもおもちゃしかない状態。コロナだからあまりべたべた触らせたくないっていうのもあるかもしれないんですけれども。そうすると、私、おもちゃで子どもと遊ぶに慣れていないので、本で育ったので。私は本が欲しいんだけど、おもちゃがなくて悪いけど子どもとあまり付き合えないなというのがあって、すごく残念だなと思ったので、こういうところでもお母さんたちは来たがってはるから。こういうところでももうちょっと子どもをあやすためにもう少し本を使うっていうのを、どう導入していただくかっていうのは考えていただいたらいいと思うんですけれども、もうちょっとこうお母さんが来たいようなところでも、本を入れていただけたらなと思っています。

以上です。

河北会長

ありがとうございます。

<事務局>

ありがとうございます。

そうですね。マタニティクラブであるとか、本の紹介であるとか、そのあたり、ちょっと今コロナ禍の中で、特に小さいお子さんはマスク等も難しいという中で、なかなか読み聞かせであるとか、保護者の方に向けてのメッセージなんかもなかなか伝わりにくい、なかなか参入しづらい。できるだけ今は短い時間で、子どもの機嫌が損なわれないようにお帰りいただくというのが、本来の目的のみになっておろうかなと思っています。このコロナ禍が抜けたときに、対応できたらなど。本ということであれば、その時間帯に本の貸出でありますとか、どういう物が借りられるとか、その場で閲覧していただくとか、そういったことは可能かなと聞かさせていただきました。

保健センターの方にも、ちょっと御協力なりどういう方式で、できるかなということを相談をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

河北会長

ありがとうございます。他どうですか。

前川委員

ブックスタート事業って今はどうなっているのですか。

<事務局>

そうですね。ブックスタート事業自体が本来、本を6か月のお子さん、1歳までにお配りさせていただく事業になってこようかと思います。本来、実は何年かに、3年間ぐらいですね、子育ての担当課とですね、一緒に予算協議でありますとか、それに掛かる費用を、どうやったら実現するかという、実現するかというところで、検討をしまいったところですが、最終的には、ちょっとそちらの方は、進まなかったという結果になっております。

今のお話もありましたけれども、ただ単に本をお配りするという事業ではなくて、本来、読書であるとか、本の大切さを知っていただくという視点で何かできないかと。そういった形での、取組に切り替えて行こうというふうな流れにはなってきています。集団でということになりますと、1歳半健診が最初になりまして、本来の目的としてはそれでは遅いというこ

ともあったので、どうしていくべきか、と。でも4か月検診では、本当に子どもさん小さくて我慢ができないので、短い間にどのくらい保護者の方にお話ができるかと、いろんな想いや葛藤の中で、少し進められていないところではあります。

本当にできるところから取り組んではいきたいという想いと大切さは伝えていきたいという想いはあるのですけれども、そういったところで難しいところ、これから何ができるかというところ、まったく考えてはないということではないと今のところは御理解いただければと思います。

前川委員

本自体を配ると予算もたくさん要るので、リストだけでも効果的なんじゃないのかなと。おはなし会にみえるお母さん方は、本をかしこまって読まなければならないと考えてみえる方がたくさんいらっしゃるの、いやいやそうじゃないんですっていうことをいろいろ具体的なことをさせてもらおうと、「そうなんですか」という方がたくさんみえるので、リストだけでも効果的なんじゃないのかなと。それも関心のある方だけにしか刺さらないと思うのですが。

河北委員

はい、どうぞ、小泉委員。

小泉委員

それは豊中のブックスタート事業の話があるんですけども、豊中のブックスタート関わっていたので、その話で。4か月検診が豊中にはありましたので、その時に必ず保護者に会える状態だったのですが、その時に豊中市の図書館はまずどこにあるのかという一覧表と、赤ちゃんが生まれたお母さんへというリーフレットが作ってあって、赤ちゃんが泣き止まないときはこの本、赤ちゃんと言葉遊びを楽しみたいときはこの本というリストを毎度作っていました。そういう感じの話ですよ。

<事務局>

子育て支援ガイドブックには、図書館はこういうところだよ、ということ載せてはありますが、今おっしゃっていただいた、一歩踏み込んだところは考えていくべきかなと。ありがとうございます。

山下委員

私たち津こどもNPOセンターも、津センターパレスの地下に、児童館、津市まん中子ども館を運営させていただいているんですけども、そこでは火曜日と金曜日の午前中に読み読みの時間を持っています。第二子の場合は2か月ぐらいから連れてらして、読み読みの時間も30分だけなんですけれども、お母さんのお膝で聞いている子どもたちの視線とかにね、お母さんっていうのは意外と気づかないんですよ、今見てるよって、笑ったでしょって、反応したでしょって、言わないと気付かないとか、それぐらい子育てに一生懸命で、そういうことに関わる人が大事なんですよ。本だけあっても何にも伝わらないというのを、実感しています。

子育て力が家庭の中で伝承されていない中で、地域の人たちが関わりながら、そういうのを実感していただく場が必要かなと思って、お母さん向けに本を読んだりすると、子育てって大変だよっていう本を読んで、ある時なんかはお母さんたち自分の子育て分かってもらったって言って涙された場面もありますので、そういうことを伝えながら、本というのを利用していかなければ、なかなか本があるだけでは人の中に入っていないのかなと思います。

河北会長

ありがとうございます。他どうですか。

小泉委員

あと、もしできるのであれば、障がい者の方の中には、私たちのことは私

たち以外の方が決めないでっていう言葉があるんですけども、それは中学生とか高校生の方にもあるんやろうなと。我々も昔中学生とか高校生だったんですけども、今何を求めているのかも時代が変わると思いますし、そういう点で、岐阜のメディアコスモスというところがあるんですけども、あそこはやはり中学生か高校生、ちょっと忘れちゃったけれども、その子たちを募集して年間を通して、図書館をどんな感じで運営したいのか聞く活動をされているらしくて岐阜のメディアコスモスは。もし本気で中学生や高校生の意向をとということであれば、現役の子たちを。でもね、書かれているのも知っているんですよ、こういうのにね。中学生の方たち、意見があればよろしくお願ひしますと書いて、図書館においてはるのを見たんですけども、やっぱりそこを来てくれて見てくれないと分からないから、ちょっと教えて欲しいんやって言ってそういう子たちに関わってもらって、岐阜なんかは運営に関わるだけでなく、なんかラジオを持っている。図書館と連携してラジオもやっている。ラジオで僕のお勧めの本はってDJみたいなことをさせているらしくて、中高生の方に、そこまで来たらそりゃこの子も図書館へ行くだろうけど、聞いた仲の良い子もいやいやこいつらがやっているんなら俺らも行こかと、本に興味がない子も来てくれそうな気がしたんですよ。

ごめんなさい。以上です。

河北会長 貴重な御意見を紹介していただけると、私たちも分からないこと多いので。他どうでしょうか。よろしいでしょうか。

先ほどの学校図書室と津市図書館の紐づけていうかネットワーク化っていうのは実際どうなんですかね、具体的には。

<事務局> システムでの結びつきというのは今の段階では難しいのかなと。大変大きな情報量になってきますので、本当に70校の学校と結ぶというのは、早急に取り組みますというのはちょっと難しい言いづらいところではあります。

河北会長 システムの問題がありますよね。

<事務局> もう少し違う方法でということで、今やっている団体貸出の延長線上で、もう少しやり方が改善できる形を模索していきたいなと思います。

河北会長 全国的にこの4月からGIGAスクール構想ということで、子どもたちがタブレットを持つようになっていくのですね、順次。最初のうちは学校の中で活用していくのですけども、いろんなところに自分でアクセスできるようになれば、電子辞書だったりとか、電子書籍だったりとか、直接本を借りなくても読めたりとかいうことも可能になっていくと面白いなと思ったので、知識の共有が出来たら、子どもたちにも伝わるのかなと、そういう手もとれるのかな、いろんなこともできるようになるといいのにな、と思ったので、ちょっと聞いてみました。

<事務局> 少し段階を踏んでいくと、GIGAスクール構想というのもある程度固まって、その次の段階だということでは参入していくというふうなことも考えられるのかなと。

河北会長 いろんな可能性がありますよね。

<事務局> 可能性としてはあるかなと思います。

ありがとうございます。

河北会長

ありがとうございます。この他、いかがでございますか。よろしいですか。

はい。ありがとうございます。貴重な御意見、たくさんあったので、また事務局の方でも検討していただいて、より良い図書館運営をしていただければありがたいです。どうぞよろしくお願いします。

それでは、その他の方へ行きたいと思えます。事務局の方から何かありますでしょうか。

<事務局>

本日、お配りさせていただきました資料の説明を少しさせていただきたいなと思えます。

今年度の事業報告、今事業につきましては年度途中というところがございますので、2月末の時点の状況を報告させていただきたいと思えます。

資料4の令和2年度事業報告を御覧いただけますでしょうか。まず、一つ目にあります、読書から遠ざかりやすい時期である中高校生が興味や関心を持つような資料の提供や参加型のイベントを実施し、地域や学校と連携しながら読書活動の推進を図ります。

本当にコロナのどうなるかというところで決めたテーマでございましたもので、なかなか参加型という難しいなというところで、今年度いろんなことができていない状況ではございます。一つの取組といたしました資料4-1にありますポップコンテストの開催でございます。今回、初回にもかかわらず384人の応募がございました。現在は優秀作品の審査中ということになっています。応募していただいた方にとって本を読む良いきっかけとなったと思えます。さらに、そのポップを見て、本を読みたいと思う方が増えていただければと思っております。その他に学校との連携としましては、資料4-2にありますように、先ほどの繰り返しにはなってきましたけれども、中学生向けの読書案内を毎月学校に送らせていただいております。シリーズの本や新刊に限らず読んでもらいたい本の紹介も月によっては行わせていただいているところで、幅広い御案内ができればと思っております。また資料4-3はクローバーと名付けました中学生版新刊案内でございます。今年度につきましては、第四次三重県子ども読書活動推進計画というのが県において策定され、その説明会及び市町子ども読書活動推進の関係者交流会に職員が参加をいたしまして、その計画でありますとか市町図書館、学校、地域の連携など様々な取組を参考に、今後も子ども読書活動推進の取組を進めてまいります。

二つ目にあります、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、三つの密を避けた新しい生活様式を取り入れた図書館運営を図りますということで、前回の会議で申し上げた感染症拡大防止対策に加えて、書籍消毒機を導入しました。書籍消毒機は、風でウイルス、ほこり、髪の毛などを取り除きまして、紫外線で除菌するという機械でございます。利用者自身が簡単な操作で使用していただけます。設置後につきましては、資料4-4にありますように新聞で取り上げていただいたほかに、資料としてお配りした「図書館たいむず」の2月16日発行号で紹介させていただき、他にも津市図書館のホームページ、フェイスブック「津シティプロモーション情報」でも広報して、書籍消毒機を皆さまにご利用いただいております。図書館の方では、主に閲覧用の新刊雑誌を消毒しております。

次に、Web予約についてですが、予約件数は前年度に比べて増加しております。現在のWeb予約割合は予約件数全体の5割を超えておるような状況でございます。

次に資料4-5は今年度の2月末時点での行事結果です。一部を紹介させ

ていただきますと、津図書館では、毎年人気の人形劇というのがございまして、どむならんさんという劇団にお越しいただいて開催をするのですが、入場者を減らした上で、いつもならば1回公演という形なのですが、本年度は午前・午後の2回公演という形で開催しました。久居ふるさと文学館では、地元三重県の絵本作家コマヤスカンさんを迎えて講演会の実施をさせていただきました。河芸図書館では絵本を楽しむ絵本講座を実施、芸濃図書館では歌と楽器で楽しむ絵本の世界とミュージックベルコンサートを実施しました。行事におきましては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、今年度前半は中止という形を取らせていただきました。ただこの10月以降再開後の行事には参加者も戻りつつあります。今後も三重県指針に従いながら引き続き感染対策を行いながら行事等に取り組んでまいりたいと思います。

以上で、令和2年度の事業報告については、説明を終わります。

合わせまして、資料5をお願いいたします。今年度の各図書館でのテーマコーナーや資料展示の状況を示したものでございます。こちらにつきましてもテーマコーナーに取り上げたものの一部を紹介させていただきます。津市出身の写真家浅田政志さんをモチーフにした映画「浅田家！」の公開に合わせて、津図書館、久居ふるさと文学館、河芸図書館の方でそのテーマを取り上げさせていただきました。その他、注目されるテレビドラマに関連したものを取り上げたことや感染症に関するもの、おうちで過ごすことをテーマに取り上げてご案内をさせていただきました。こうしたテーマコーナーとして本を前出しして、皆様に御覧いただきやすくすることで、読書活動の推進につながるよう工夫しています。

以上で令和2年度テーマコーナー・資料展示についての説明を終わらせていただきます。よろしくをお願いいたします。

河北会長

はい、ありがとうございます。事業報告とテーマコーナーについてのお話ありましたが、御意見等ありましたら、お願いします。

はい。前川委員。

前川委員

久居ふるさと文学館であったコマヤスカンさんのイベントに参加させていただきました。県内の作家さんを、この時期なので紹介いただいて、すごく良かったです。昨年の鈴木まもる先生もすごく気さくな先生で、時間オーバーしてたくさんお話伺わせていただきましたし、コマヤスカンさんも使っているサインペンの説明から制作過程をこと細かく、取材風景も教えていただいて、無料で市がこういうことを開催していただけると、子どもたちもお母さんと一緒に最前列で聞けて、本物の作家の人の話を聞ける機会もそうそうないので、すごい良いことをしていただいてこれはずっと続けていただきたいなと思います。ありがとうございました。

<事務局>

ありがとうございます。

河北会長

はい、ありがとうございます。他にどうでしょうか。よろしいですか。

はい、ありがとうございます。事務局から以上でございませうか。他に委員の方々から何か事務局に伝えたいことや話したいことはありますか。

小泉委員、はい。

小泉委員

もう終わりなのにすみません。

河北会長

いえ、大丈夫です。

小泉委員 | ごめんなさいね。ほんとこしか私知らないんですけれども。おそらく他館も一緒だと思うんですけれども。去年引っ越してきた時に、津市図書館へ行こうと、一階から入ったんですけれども、右にその郷土の歴史みたいないろいろ置かれていて、左におっきなぬいぐるみ、くまちゃんのぬいぐるみが置いてあるんですけれども、幼児の方はこっち、御老人や大人の方はこっちというのは分かったんですけれども、私、中高生あたりの本を読みたいんやけどいったいどっちに歩いたらええのやらと。やっぱり、メインがおちびちゃん用と大人用になっているのは分かるんですけれども、あれ私なんか中高生の本どこで探したらええんやろっていう感じになって、どう進んでいったらいいのか分からない感じで、エントランスが。やっぱりそこらへんも若い子が入ってこうしたら我々入りやすいのになっていうのもあると思うんですけれども、こういう人が来たらこんなところで進んでいってくれたらええのやっていう雰囲気を工夫していただければなと思いました。以上です。

河北会長 | ありがとうございます。

<事務局> | 中高生ですと、児童書側でも気軽に読める本があるだろうし、マンガではないけれどその小説版みたいなものがあったりだとか、はたまた一般書の方には、いろいろな興味を持っていただける、そのような読み物だけではなくて、調べ物をしたりだとかいう部分も、一般書の方にはあるだろうと。するとなかなかその子たちに向けてというところは、今は準備やご案内ができていない点だというのは分かっているのですが。

小泉委員 | そもそも、難しいですよ。いろいろな本が読めるからね。

<事務局> | そのあたり本当にどう見せていくか、図書館の本をどのように御案内できるか、本当に貴重な御意見ありがとうございます。

小泉委員 | すみません。言い方が難しかったです。よろしくお願いします。

河北会長 | 使ってみないと分かりませんからね。

<事務局> | その子にとっては、おっしゃっていただいたように障壁に対してもいろいろな障壁があるかと思えます。そういったところをマンパワーでカバーしていくのか、もっと見せるところがあるのかと、本当に良いことを聞かせていただいて、やっていかなければという部分を、本当に、それが実現するというのはすぐにはというのを思うところもありながらも、変わっていく図書館を考えさせられる場になったかなと思えます。ありがとうございます。

河北会長 | ありがとうございます。はい、他にどうでしょうか、よろしいでしょうか。

はい、それでは本日の会議の議事これで終了ということになります。ありがとうございます。貴重な御意見たくさんいただきました。それでは事務局の方から、御挨拶ということでお願いします。

<事務局> | 本当にお忙しい中、貴重なお時間、御意見ありがとうございます。頂戴しました御意見につきましては、今後の図書館運営の方に反映していくように努力してまいりたいと存じておりますので、今後もよろしくお願いいたします。

今後もより良い図書館となりますように、皆さまのお力をお借りしてということで、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

河北会長

これを持ちまして令和2年度第2回の図書館協議会を閉会いたします。本日は長い時間になりましたが、ありがとうございました。気を付けてお帰りください。

委員及び  
<事務局>

ありがとうございました。